

平成26年 網走市議会  
経済建設委員会会議録  
平成26年4月22日(火曜日)

○日時 平成26年4月22日 午後3時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 天都山展望台・オホーツク流氷館の整備について
2. その他

○出席委員(6名)

委員長	佐々木 玲子
副委員長	小澤 陽平
委員	工藤 英治
	栗田 政男
	古都 宣裕
	山田 庫司郎

○欠席委員(0名)

○委員外議員(1名)

議長	小田部 善治
----	--------

○傍聴議員(8名)

飯田 敏勝
井戸 達也
金兵 智則
近藤 憲治
高橋 政行
平賀 貴幸
松浦 敏司
渡部 眞美

○説明者

副市長	大澤 慶逸
観光部長	田口 桂
建設部長	石川 裕将
観光課長	武田 浩一
観光部参事	二宮 直輝
建築課長	角田 敏文

○事務局職員

事務局 長	佐藤 明
次 長	吉田 正史

総務議事係長 岩尾 弘敏

係 菊地 香代子

係 松山 俊

午後3時00分開会

○佐々木玲子委員長 ただいまより経済建設委員会を開会いたします。

本日の委員会は、天都山展望台・オホーツク流氷館の整備についての議件1件でございます。

まず、天都山・展望台オホーツク流氷館の整備について、武田観光課長より説明をお願いいたします。

○武田浩一観光課長 それでは、天都山・展望台オホーツク流氷館の整備について、実施設計が終了いたしましたので御報告いたします。

本日は資料1号、資料1-1号、資料1-2号で御説明させていただきます。

資料1号をごらんください。初めに、1.天都山展望台・オホーツク流氷館建設実施設計についてでございます。

建物の概要についてございますが、建物の所在につきましては、網走市天都山244の3、245の8となります。

構造につきましては、鉄骨造一部鉄筋コンクリート造となり、地階1階付地上2階建となります。

建築確認の申請上の床面積につきましては、2,154.5平米となっております。この面積には2階のテラス部分が含まれておりますので、これを除いた床面積は、2,061.75平米となります。

続きまして、資料1-1号をごらんください。

1ページをごらんください。建設位置の配置図がありますが、図面上が網走湖側、図面下がオホーツク海側となります。建設位置につきましては、図面左側の駐車場と現在の施設の間に建設いたします。

2ページをごらんください。地下1階の平面図となります。1階より図面下の1.ウエルカムゾーン「流氷の海へ」から地下へ降りていきまして、図面右側に2.「流氷の世界体感室」、中央に3.地球の贈りもの「奇跡の流氷物語」と、4.「流氷下の生きもの」、左に5.「流氷幻想シアター」の配置構成となっております。

3ページをごらんください。

これは流氷幻想ギャラリーへの導入となります、1階の入り口で最初に見えるウェルカムゾーンの演出のイメージですが、流氷幻想ギャラリーへの入り口となる壁面に映像を投影し、来館者の期待を高め、流氷幻想ギャラリーへ導く演出を行うとともに、ロビーから来館者を誘うアイキャッチとなります。また、映像演出とあわせ、展示室へ繋がる階段室への音響演出もあわせて行い、来館者のわくわく感を高める効果の演出を行います。

4ページをごらんください。流氷の世界体感室の平面詳細図となります。

図面左側の待機スペースで防寒着を受け取り、上段の前室を通り、体感室へと入っていきます。室内には見学デッキを設けるとともに、下へ降りて見学できる、実際の流氷に触れて体感する歩行エリアも設けているところがございます。

5ページをごらんください。左上図面のブルーで示されている部分が、体感室の臨場感を高める壁面描画の範囲となります。イメージではございますが、図面下方の描画のような奥行き感のある絵が描かれることとなり、体感室の雰囲気を高めてまいります。

6ページをごらんください。体感室にて網走の美しく雄大な冬の自然世界を臨場感を持って来館者の方に体感いただくイメージ展開でございます。

枠図の上段に書かれていますテーマシーンに沿って、照明演出、映像演出、機械等の演出、音響演出を組み合わせ、来館者がまさしく冬のある1日に鱒浦海岸にいるような体感を演出いたします。

照明演出につきましては、通常照明から徐々にうす暗くなっていき、朝焼け、昼の柔らかな光、流氷ブルーの演出、夕焼け、徐々に暗くなり夜へ移行します。その時間軸に、映像演出としてダイヤモンドダスト、はばたくオオワシ、吹雪、浮かび上がる月光、オーロラ、流れ星を演出いたします。

その他の演出として、幻想的なけあらしの情景などの演出を行い、ブラックライトなどによるさらなる臨場感あふれる演出をいたします。あわせて、演出中は風の音、動物の鳴き声やイメージ音響を行い、総合的な演出による臨場感をつくり出し、来館者に冬の1日の網走を感じていただき、感動を与えていきます。

7ページをごらんください。「奇跡の流氷物語」と流氷館の生き物の詳細平面図となります。

図面右側にプロジェクションマッピングを配置し、天井からのプロジェクターにより映像が投影されます。またグリーンで示されている部分は、床面への投影もあわせて行います。

中央がクリオネなどの流氷下の生き物の水槽展示を配置し、左側につきましては、流氷の仕組みや、不思議など来館者にフェイストゥフェイスで解説員による説明を行うゾーンとなります。

8ページをごらんください。プロジェクションマッピングの構成図となります。

1階からウェルカムゾーンを通り、来館者が展示室で最初に目に入るのがプロジェクションマッピングの映像演出となります。

資料には、映像展開イメージを記載しておりますが、プロジェクションマッピングの不思議な映像演出により、流氷への興味を高めます。

ボックス型のキューブが、あたかも開いたり閉じたり、クリオネが手前に飛び出したり、アザラシが海面から顔を出すなど、視覚に訴える演出効果でございます。立体的に投影されますマッピングの映像の効果を生かしまして、壮大で幻想的な流氷の世界が次々とあられる不思議な映像クリップ集として構成いたします。

9ページをごらんください。流氷下の生き物の水槽展示でございます。

左上図面の、下の部分に床面からの高さを変えたクリオネの水槽3槽を設置いたします。また図面上部の水槽には、フウセンウオ、ナメダango、シマエビ、アツモリウオなど流氷下の生き物を展示し、流氷が訪れるオホーツク海を感じていただきます。

10ページをごらんください。流氷幻想シアターの平面詳細図となります。

座席数につきましては、74席を想定し、後方中央を車いすのスペースとして確保しております。

11ページをごらんください。シアター映像のイメージでございます。

流氷は地球規模の大きな自然の営みであり、毎年オホーツク海に到来する流氷は、多くの生き物たちを育む揺りかごともなっているというようなソフトイメージで展開をいたします。

またナレーションは最小限に抑え、言葉による説明がなくても、流氷や網走の魅力らが感じられる映像といたします。

5面による映像は、奥行き感、広がり感、ダイナミック感を感じることができるとともに、5面を

別々な映像を組み合わせることにより、例えば、上部にアザラシが飛び込む映像があらわれまして、正面のスクリーンから飛び出すシーン、あたかも流水の下に潜ったようなシーン等の5面スクリーンの効果を最大限に生かして来館者に感動を与えます。

あくまでもイメージでございますが、左側がストーリーとイメージとなります。

オープニングで地球規模の営み、流水から始まり、次に流水到達、その躍動感と静寂、12ページにいったんきまして、③で厳寒に生きる動物たち、④で流水下・命あふれる世界、右側に移りまして、⑤で網走の冬を楽しむ、⑥でエンディングへつながるイメージとなっております。

13ページをごらんください。1階の平面図となります。

インフォメーションカウンター、観光情報ギャラリーとショップの構成となり、来館者の滞留ゾーンともなる部分でございます。

14ページをごらんください。1階のインフォメーションカウンター、観光情報ギャラリーの展開図となります。

ブルーの部分がガラス面となりまして、開放感を持たせております。また、ベンチを設けることで、休憩スペースなどとしても利用いたします。

観光情報ギャラリーには図面の左側になりますが、メッセージボードを設け、手書きによる職員の旬な情報ですとか、来館者による情報なども書き入れることができることといたしまして、デジタルではなくアナログの、まさしく生きた情報を提供いたします。

また、網走の四季を4枚の大型写真を使用し、色で網走の四季のイメージを与えるとともに、裏には、その施設の情報提供する情報パネルを配置することで、旬の情報や1日または季節の裏情報を提供いたしまして、滞在時間の延長やリピーターの確保を図る情報提供をいたします。

15ページをごらんください。図面上部がインフォメーションカウンターのイメージとなります。

円形のカウンターといたしまして、上部にインフォメーションモニターを設置し、管内情報などもあわせて提供いたします。

図面下は、先ほども御説明いたしました大型情報パネルのイメージ図となり、季節ごとに両面を使った網走のイメージづくりと情報提供を行います。

16ページをごらんください。ショップの展開図と

なります。

統一されたボックス型の商品棚を活用し、見せる演出をした商品配置とし、ギャラリーとしての見る楽しさも演出する空間といたします。

17ページをごらんください。2階の平面図となります。

カフェと多目的スペースの構成となります。図面下、オホーツク海側にテラスを配置し、解放感も持たせた作りとしているところでございます。

18ページをごらんください。2階カフェと多目的スペースの展開図となります。

図面上段が、中から網走湖側を見たイメージとなります。2段目が中からオホーツク海側を見たイメージ図となります。3段目、4段目がカウンターなど内部のイメージ展開図となります。

19ページをごらんください。屋上階の平面図となります。

エレベーター、階段、風除ホールがある部分につきましては、エレベーターの設置部分を除き、ガラス張りとしてできるだけ360度の景観を最大限に確保し、景観を楽しんでいただきます。また、ルーフデッキにつきましては、一段高くなっておりまして、目線に転落防止の立ち上がり壁が入らない工夫をし、ルーフに立ったときに、風を感じながら、左右上下の広がりをごらんください。東西南北、4方向からの立面図となります。

外壁仕上げについては、景勝地に立地する施設として定着している現施設を継承しつつ白系を基本とし、下層部については、茶系のれんがタイル調や木調ルーバーを使用し、周辺景観を損なわない配慮をした色彩としているところでございます。

21ページをごらんください。21ページでございますけれども、外観イメージの写真を各方向から添付しております。

続きまして、資料の1号にお戻りください。2.管理運営について御説明いたします。管理運営につきましては、別添資料、資料1-2号をごらんください。

(1) 管理運営方針についてでございますが、管理運営につきましては、公設民営による運営といたしまして、指定管理者による運営委託といたします。

指定管理者については、これまでの経験やスタッ

フのスキルが重要であることから、引き続き網走観光振興公社を想定しているところでございます。

続きまして、(2)管理運営収支見込みについてでございますが、入館者数については20万人を想定しています。

実施設計が終了し施設内容のスペックも高くすることができ、また、流氷体験を具現化する、ベストな魅力ある施設とすることができたと考えております。

また、平均単価をおおむね550円と想定します。現状の平均単価400円程度で、大人個人入館料は520円でございますが、平均単価550円とすると、大人個人700円台前半程度となります。

類似施設等の比較では、紋別流氷科学センターは750円、上川アイスパビリオンは1,080円、小樽流氷凍れ館は780円となっております。新施設の状況から考えて、妥当な価格と考えております。

収入については入館料、家賃で1億1,840万円、支出については人件費、光熱水費、事務管理費など8,480万円となっております。3,360万円の積立金と想定しております。

以上が天都山展望台オホーツク流氷館の整備についてでございます。

**○佐々木玲子委員長** 皆さんのほうから、質問等ありましたら。

**○古都宣裕委員** 資料1-2号のところ、家賃に対して、年間だと思のですが840万円となっているのですけれども、これはレストランスペースとショップをあわせたものに対してでしょうか。

もしあわせたものでしたら、どういう配分で考えているのかお示してください。

**○武田浩一観光課長** ショップとカフェとテイクアウトコーナーの部分という形になりますが、現在のところの想定内訳といたしましては、カフェの部分で約460万円程度、ショップで約350万円程度、テイクアウトのところ30万円程度というような形で、現在のところ想定しているところでございます。

**○古都宣裕委員** 支出の部分で、人件費等々トータルした維持管理費が書かれていますけれども、これは、今現存している部分に対しては、新しくなったという部分で言えば、施設の中身の機械的な部分というのは、燃費等もよくなっているのだから落ちているとは思いますが、相対して現存の施設と比べて、どれくらい落ちているのかというのが気になるのですが、お示しいただけますか。

**○武田浩一観光課長** 大きく変わる部分についてでございますけれども、水道光熱費の部分が大きく変わる部分となります。

これにつきましては現状、20万人程度が入っていたときと比べるような形となりますけれども、その時、水道光熱費につきましては約1,200万円程度でございましたが、今回、冷房、暖房、来館者の環境を整えるという部分、機械の部分も含めまして、このような1,800万円という数字になっていくところでございます。

**○佐々木玲子委員長** そのほか、いかがですか。

**○山田庫司郎委員** 説明いただきまして、基本設計のときもいろいろ議論してきましたし、流氷館がいままでと違った新しい機能を持ってほしいという、そういう意見もあつたり、展望台をもっと高くしたい、いろいろ市民の考え方がある中で、議論をずっと重ねながら、最終的に実施設計ということできょう説明をいただいたので、ぜひ新しい形でスタートしまして、網走の観光を引っ張ってほしいと。

オープンが8月ということを目安に予定していますから、そこを目指してやっていただきたいと思うのですが、きょうは建設部長もおりますので、いつも聞かせていただいているのですが、非常に心配をしているのは、全道的、全国的に見て、今、人件費、資材の高騰も含めて、それから東日本の復興も含めて作業員、いろいろな関係が非常に不足をしていて、入札が不調になる状況が、数々生まれてきている経過があつたものですから。

網走市も例えば道の事業でいえば、向陽病院の改修がまた始まりますし、道立公園も整備をしていると。特に今建築関係は、今回この流氷館と市民健康プールということで、大型の事業が非常に集中をする年になるということで、市内の建築業者のほうも、実際大変な状況がひとつあるのだらうと思うのですが、オール建設、建築も含めてぜひ頑張りたいなというふうに思っているのですが、建設部長がきょういらっしゃいますので、25日入札の予定と聞いておりますけれども、ぜひ地元の企業が取っていただけることが、非常にうれしいことですし、その辺を含めて、もしお話しいただければと思います。

**○石川裕将建設部長** 今、道事業になりますけれども、向陽病院を含めて非常に建設工事が集中をしているという状況もございまして、それらについて、

事前に情報等もいただいておりますので、市内の業界にも早目に情報提供、またいろいろ集まりがあった折には、業界の意見も聞きながら準備を進めてきておりますので、施工については、問題ないと考えております。

資材単価等ですけれども、これらにつきましても、設計を進める中で鉄鋼メーカーについても、いろいろ調査をしながら進めてきておりますので、そこら辺も、今のところは、工期内に完成できると見込んでおります。

**○山田庫司郎委員** 今、部長からお話聞きましたので、25日にはきっと落札をされて、早めに着手できるような状況が生まれるのだろうかというふうに思っています。

少し心配な部分がありましたけれども、網走がやはり業界を含めてぜひ御協力いただいて、助け合いも含めて、完成に向けて頑張っていたきたいと、こんなふうに思います。

以上です。

**○佐々木玲子委員長** その他ございますか。

**○古都宣裕委員** 実施設計については理解するものなのですけれども、いままでの経過として、基本設計から流れてきている中で、いろいろな意見を集約してきたと思います。

その中で、意見を集約する中でどこまでの検討をされた上で淘汰されて、今こういう施設になりましたというのは、なかなか説明がまだ不足しているのではないかなと私は思うのですけれども、一つの例をとれば、高さの議論については種々議論した経過というのは表立って見えるのですけれども、例えば、水族館一つにとっても、今このような形で何種類かはできるようにになりましたというような部分の説明というのもまだ足りてないですし、そういった一つ一つの説明というのを細やかにしていくことは、とても大切だと思うのですけれども、いかがでしょうか。

**○武田浩一観光課長** これまでの基本設計等におきまして、いろいろな市民の意見、議会等の意見をいただいております。

総体的な話の中でそれはできるもの、できないものと分けて、現在の形にしているところでございますが、例えば、現在の施設については、階段が多くエレベーターにしていけないということで、バリアフリーの対応という部分につきましては、すべての地階から上まで一つのエレベーターで上れるバリアフ

リーを対応させていただいたところがございますし、あと女性に選ばれる施設というような形の御意見もございました。

その部分につきましては、女性に選ばれるということになると、トイレの充実が重要だという話になりまして、その部分については女性用トイレにパウダールーム等を設けたり、その辺を配慮したところがございます。

また、先ほど委員がおっしゃった水族館機能や高さ議論が先ほどございましたけれども、その辺についてはいままでの経過のとおり、そのような形で相対的な全体の大きな枠の中で予算等も含めまして、現在の形で決定させていただいたところがございます。

**○古都宣裕委員** お話も大変わかるのですけれども、その中で採用する部分、不採用になる部分というのが出てくると思うのですけれども、いろいろなものもちろんの実現不可能と思われるような突拍子もない意見もたくさんあったとは思っています。

その部分でいかに逆に言えば、民間であれば実現性を持ってプラス思考で考えた上で、素材を変えるですとか、いろいろな角度から見た上で、ここまで検討したけれど、やっぱりだめだったというような過程があるはずなのです。

その過程をもう少ししっかりと説明すべきではないかなというお話だったのでございますけれども。

**○武田浩一観光課長** 例えば、水族館の部分という御意見があったと思っておりますけれども、その部分についてはあくまでも今回天都山展望台及びオホーツク流水館というのは、流水の部分、景色というものを特化した、そこを目玉とした施設で考えております。

水族館機能というのは、御意見もありましたけれども、水族館という部分につきましては大変な費用と、飼育がかなり難しいと部分もございまして、その部分も考慮に入れて全体的な枠の中で、このような形、例えばですけれども、そういうような形で、現在の形にさせていただいたところがございます。

**○古都宣裕委員** 水族館を例にとりて、今お話をされましたけれども、基本的にはいかなる突拍子もない意見であっても、プラスのいかに実現していくかという部分を持った観点を持っていかないと、正直、観光という部分に対しては、市民の理解を得るといふ以上に、観光という施設であれば外からの視点というのがものすごく大切になってくると思いま

す。

その中でいかにしてその場所が楽しいものであるか、逆に非現実的なものというの、ほかでは体験できないもの、見られないものとなるので、そこが目玉になっていく強みのあるものになっていくと思うのです。

その中で極論を言えば、山の水族館というのが北見にできていますけれども、山に水族館があるという非現実的なものがあるからこそ、今そこはやる。また、学者等と組んだ上で、特性を生かしたような形で作っているという部分が大いに見られて、来るものであると思うのですよ。

市民等の意見交換会等々でも私が見てきた経過の中では、いろいろなそういう中身の内面的なところの話がされると、今話しているのはまず外のかにした施設をつくるかという部分をされた上で、余り中身のほうの協議には入っていかなかったという部分を見てきております。

その中で、いきなり実施設計ができ上がりましたといったら、これはもう中身がこのように、ほぼ決定されているようなものになってきておりますので、そのまま、いままであったいろいろな意見というのは、どのように精査された上で淘汰していったか、またこういう形になっていったかという説明をもう少し詳しくされた、もしくは広報等でもオープンにして、情報を開示していくことが必要ではないかなと、また市民の理解も得られるものではないかなと私は考えるのですけれどもいかがでしょうか。

**○武田浩一観光課長** 先ほどもお話しいたしましたけれども、そういった意見の中で、採用した部分もございます。

また、魅力ある施設ということで、あくまでも流氷ということが目玉になっておりますけれども、流氷をただ置くだけではなくて、1日の移ろいをあらわしたという形につきましましては、ほかにはない施設で感動体験ができると、その中に来館者は、まさしく、その日流氷が来ている日を体感できるというのは、目玉の一つであるというふうに考えております。

**○古都宣裕委員** 1日の移ろい、季節の移ろい等のシーズンの移ろいを表現しているのは充分資料では資料で理解するものでありますけれども、基本的に冬に来てもらうための、夏場の最初の発信、冬の魅力の発信施設であったという部分では、私は流氷館

という施設を評価するし、理解しているものなのですけれども、流氷館一つとしての魅力では、それだと冬本番に来たときに、実際体験できるものであって、流氷館に来てまで体験するものでは、なかなかないのかなと。

来たときにしか流氷館でしか体験できないものというのを、もう少しアピールするべきではなかったのかなと、私は思うのですがいかがでしょうか。

**○武田浩一観光課長** 流氷館につきましましては、夏だけに来てもらうということではなく、冬に来た方も、実際お一ろら号に乗り、こちらでは実際触れて体験でき、流氷ってこんなことになっていますと。流氷の成り立ちですとか不思議ですとかも、理解した上で見る。見てから理解するというような形の施設としての、構成と考えておりますので、夏だけ、冬だけというような形ではなく、四季を通じていつ来ても感動が与えられるという施設の構成としていところでございます。

**○古都宣裕委員** 正直、私は紋別市の施設も行ってまいりましたけれども、流氷ができるまでの過程等々とジオラマなどでものすごくしっかり再現して、学習施設という部分に特化した形ではありますけれども、わかりやすくよいできだというふうに見てまいりました。

そういった部分で、なぜこういう形で流氷ができ上がっていくかという部分もやると、余り専門的になり過ぎても理解も難しくなってくるかもしれないけれども、そういった部分での、どういった形であるかという部分をわかりやすく見せるということも物すごく大切になってくると思います。

今まだ、資料の中でどういった形で、そういう部分を表現していくかというのは見えませんが、そういった部分をしっかり見せていくことによって、類似施設がほかの町にあるというのも、新しさでももちろん優位性をとれるものではあると思うのですけれども、さらにそこを向こうを超えるような形での、展示の部分というのも充実していくことが必要だと思うのですけれどもいかがでしょうか。

**○田口桂観光部長** 委員のおっしゃるとおり、流氷のでき方ですとか、その辺の学習の機能というのが非常に大事だと思っております。

紋別市の施設についても、分かりやすい造形物などを使いながらやっているというふうに考えておりますが、私どもの現在の流氷館につきましても、これまでのノウハウを蓄積した中で、何といたっても特

微的なのは、網走の流氷館の場合は、解説スタッフが非常に一生懸命取り組んできていて、それで一定の評価を得ているということで、施設だけの問題、ハードだけの問題ではなくて、マンパワーといいま  
すか、解説員のフェイストゥフェイスの部分が、お客様の満足度を上げるというふうを考えております。

でありますので、いろいろな新施設につきましてもいろいろな機能はありますが、その中でも、解説スタッフが解説をしやすいような、展開をできるようなことを整理していきたいというふうに考えております。

**○古都宣裕委員** 観光施設の部分が強く出る施設だと思うのですけれども、観光というのも御存じだと思うのですけれども、やはり廃りみたいな流行的なところも重々ございます。

その中でこれだというので全部決めてしまう部分ではなく、例えば昔は団体客だったのが個人客に流れてきたりという部分も大きくある中で、流動的に動ける部分、または変えていける部分というのも大事になってくると思います。

そのときに、1回1回大がかりな設備投資が必要になるというような形ではなく、多少はそういった動きができる部分というのも残しつつ、しっかりしたものに今あるもので完成ではなく、これからも、つくり上げていくのだという気持ちを持って臨んでいただきたいと思います。

**○佐々木玲子委員長** そのほかございますか。

**○栗田政男委員** いよいよ長い議論の末に、着工にこぎつけたと言いますか、そういう時期に来たのかなという気がしています。

そういう意味では非常に感無量な気もしていますし、期待するところも非常に多いところでもあります。

ここまで来た以上、細かな点を指摘してもどうしようもない話なので、前向きに考えたいということで、一つの区切りですね、こういう状況になったということは、後は発注した暁には、この細かな打ち合わせは別にしましても、ソフト面、これからのオープンに向けた外部的なPRですとか、もちろん市民に対する周知徹底も必要でしょうし、そういう情報も、できれば細かく私たちにもいただきたいですし、なぜかと申しますと、やはり市民に対する説明責任は私たちにも大きなものがあります。

その責任を一緒に負っていかなければならない。

そういう決意を持って、今回はこの案件、考えたいと思います。

控えめなのか、過大評価なのか20万人の想定ですが、もし景気回復が順調に進んだ場合については、まだまだ期待できるものもあるのかなという気がします。

そういう意味からも、しっかりとこれからのPR、オープンに向けてこれからが本番ですから、ハードの部分では一つの区切りがつかますけれども、しっかりやっていただきたいというふうに思います。

ただ、家賃収入いろいろ雑駁な案ですから、何とも言えないのですが、食堂の部分ですと今の現状を考えたときに、建て直した部分でひと月40万円の家賃というのは本当に大丈夫なのかなという気もするので、その辺は幾らでも変更していける話なので、十分精査しながらしっかりとした対応をしていただきたいと思います。

できるならば、委員会にも進捗も含めて、いろいろな環境をしっかりと報告いただきながら、私どもも一緒に見守って、つくり上げていきたいというふうに意見を申し上げます。

以上です。

**○佐々木玲子委員長** そのほかよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で天都山展望台・オホーツク流氷館の整備についての報告を終わらせていただきたいと思います。

---

**○佐々木玲子委員長** 理事者側のほうで、そのほか何か案件をお持ちでしょうか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

委員のほうで何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で経済建設委員会終了いたします。

午後3時44分閉会

---